

日吉台地下壕保存の会

会 報

第43号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

賛同者各位
賛同団体各位

1997年7月

『第5回 平和のための戦争展』
——御報告とお礼——

平和のための戦争展実行委員会

暑い日が続いておりますが、皆様におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

去る6月14日・15日、『第5回 平和のための戦争展』は、両日共に天候にも恵まれ、多勢の方々の御来場をいただき成功裡に終わることができました。

これもひとえに御賛同下さいました皆様方のお力添えの賜物と心より御礼申し上げます。

さて、『海軍蟹ヶ谷通信隊地下壕』については、ごく最近、住民の熱意ある働きかけと川崎市の御理解をいただき、保存されることに決定致しました。

また、『陸軍登戸研究所』（現明治大学生田校舎敷地内）については、明治大学人文科学研究所による3ヶ年研究計画の最終年度が今年度にあたり、実態解明が大いに期待されるところです。

そこで、私達は、『海軍連合艦隊司令部・艦政本部地下壕（日吉台地下壕）』も含めて、過去の戦争の事実を伝えるための大事な証拠として、形ある教材として、重要な戦争遺跡の保存を強く訴える活動をこれからも進めてまいりたいと思います。

これからも、御支援・御協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

目 次	ページ
川崎・横浜平和のための戦争展 ご報告とお礼	1
同 感想文集	6
同 会計報告	8
『戦争遺跡保存全国ネットワーク』結成をよろこぶ	2
「戦争遺跡保存全国シンポジウム」に参加して	3
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話21	4～5
幹事会報告	7
平和のための戦争展かながわ	8

『戦争遺跡保存全国ネットワーク』結成を喜ぶ

幹事 酒井 啓

七月二一日、長野県松代において、戦争遺跡保存に関して画期的な『戦争遺跡保存全国ネットワーク』が結成された。

この組織の活動は、近現代史における戦争実相の調査研究や戦争遺跡の史跡・文化財としての保存を目的に、①関係機関に対する要請、②シンポジウムなどの開催、③会報・研究誌などの発行、④その他を行うことが規約に記されている。

近現代遺跡の調査・保存に影響力のある組織としては、

すでに『産業考古学会』が一九七七年に設立され、実績をあげている。『戦跡保存ネットワーク』も、これに匹敵する実力を付けていくことを期待したい。

『戦跡保存ネットワーク』結成に先立って、『戦争遺跡保存全国シンポジウム』と第一第三分科会が行われた。

『シンポジウム』では、広島・沖縄・神奈川・京都・松代・中国黒龍江省（虎頭要塞）の各地域における戦争遺跡の保存状況が報告された。

『シンポジウム』での驚き

は、ある程度予測はしていたが、戦争遺跡の数のすさまじさである。今後の研究調査と保存の困難さが目に見えるようだが、学術研究の超巨大な鉅脈が広がっているともいえる。

アジア太平洋戦争遺跡は、日本国外にも、北アジア・東アジア・東南アジア・南アジア・ミクロネシア・メラネシア・ポリネシア・オーストラリアなどの非常に広大な地域に広がっている。これら全部を詳細に調査するのは、少なくとも四〇～五〇年かかるのではないか。

一方、分科会で確認されたことの一つは、戦争遺跡に関

する、本格的な学術調査の必要性である。学術調査とは、主に、文献史学（狭義の歴史学）・考古学・土工学史的調査などである。分科会報告会では、特に考古学的調査の重要性が指摘された。

学術調査は、戦争遺跡の保存価値についての有効な説得論理・説得材料を提供するだろう。従って、プロ・アマチュア研究者の今後の活躍が非常に期待されている。

ところで、学術調査と保存運動（一般市民主体によるもの）とは領域を異にし、互いに独立である。そこで、学術調査はどこまでも学術調査として発展しなければならない

ものであり、保存運動はまた保存運動としてその発展を期待されるものでなければならぬ。

それにもかかわらず、学術調査と保存運動は、やり方によつては、十分に両立しうるだろう。学術調査と保存運動とが、戦跡保存に向けて、車の両輪のごとき協力・補完を行うには、当事者が互いの仕事をよく知る必要がある。少なくとも、研究者による一般市民への卒業論文指導に匹敵するような啓発（これは大変だ）と、一般市民の自力による学術的教養の強化（これもかなりの努力がいる）が必要なのではないか。

長野市松代町で七月二〇、二一日に開催された「戦争遺跡保存全国シンポジウム」に、日吉台地下壕保存の会より参加の三名のうちの一人として出席してきました。

当日は、各地で活動している保存運動の市民団体や、グループの代表の方々と出会い、お互いの情報交換、平和への願いを語り、学びあつてきました。

全国から二二団体を迎え、いられた「松代大本営の保存をすすめる会」の方々の生き生きとした輝く笑顔が、今でも私のまぶたに焼きついております。松代の方たちは本当によく頑張っているのだと頭の下がる思いでいっぱいでした。交流会での楽しいひとときは、全国からの遠路の疲れもとれて、みんなが仲間として心かよい合せることができた

素晴らしい晩になりました。

二日目は三分科会が開催されたので、三人が別々に参加することになり、私は松代公民館で開かれた第二分科会「調査の方法と保存整備の技術」（コーディネーター菊池

* 「戦争遺跡保存全国」 *

* シンポジウム」に *

* 参加して *

* 幹事 吉岐 尚子 *

実氏）に参加しました。各地の報告を聞き、自分でも日吉台地下壕の現状を報告して実感したのは、日吉台は都心に近く、交通の便など足場がよいこと、マスコミの関心も大きく、ときどき取り上げられ報道されるなど、よそに比べ

て条件がよいということです。

分科会も無事に終わり、最後の挨拶で沖繩の「南風原陸軍病院壕群保存の会」代表の方は「来年は、沖繩でみなさんとお会いしましょう！」と結んでしまいました。大きな拍手の中で、これからは全国に仲間がいるのだ、出来たのだと思い、共に一歩一歩やっていたこうと考えを新たに帰ってきました。

松代の会員の方々は、今ごろ大役をはたされホッとされているころだと思えます。本当にお疲れ様でした！！

それにしても新幹線開業のためか善光寺の形をしたおもむきのあつた長野駅舎がとりこわされており、いろいろな思いが込み上げてきました。これは県外人間の感傷でしゅうか！ どこにでもある駅ビルがそこにありました。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 21

空襲

★A1氏・宮前

昭二〇年四月四日に空襲を受けた。最初、焼夷弾が落ちた。当時、葦葦屋根であったので燃え易かった。父母達は井戸からつるべで水を汲んで消火に当たっていた。

一段落して、朝方井戸のまわりで休んでいた時、突然二五〇キロ爆弾が落ち、叔母二人と母が亡くなった。また、当時醬油を醸造していたが、従業員の若い衆が、落ちてきた底の下敷になって亡くなった。姉が一人だけ助ったが、姉も大腿部に爆弾の破片が入る傷を受けた。この破片は二

三年後取り出した。自分はまだ八才と小さかったので、家で掘った防空壕に入っていた助かった。

この時、落ちた二五〇キロ爆弾は一一発で、二発が炸裂し、九発は不発だった。不発が多いのは命中率をあげようと低空から落としたためといわれる。不発弾のうち八発は掘り出されたが、一発は行方が分らず、まだ地下に埋ったままであるという。この爆弾攻撃は寄宿舎にあった連合艦隊司令部がけて落としたものがそれだと思われる。

四月一五日の横浜大空襲の時には、山根（山ぎわ）に沿った農家が殆ど焼かれた。井上さんは家も焼かれ、奥さんのおじいさんが亡くなった。空襲になると家具を外に出したタンを被せた。米軍は最初ガソリンを撒いてから焼夷弾

を落とした。地下壕の入口のある山根に沿った家が焼かれたのは、ここに軍の地下壕があることが分っていたからではないか？ 空襲はその後もちよこちよこあって何回もやられた。

★K1氏・箕輪

昭和二〇年四月四日、一五〇一六日、五月二四日の三回が、空襲の中でも大きく、箕輪二三軒、宮前二〇数軒が焼けた。我が家も大聖院（箕輪町のお寺）と同じ時に焼けた。当時海軍に強制的に買上げられた貸家が三軒あったが、一軒焼けた。日吉の駅前には余り焼けなかった。

家もリヤカーもすべて焼けたが、政府から預っていた管理米九俵は守った。戦後町内会長をしていた安斉清氏が、精米して罹災者に配った。黙ってやったため、氏は警察に一〇日間留置された。

空襲の時、兵隊は安全な地下壕に避難したが、民間人は入れてくれなかった。爆撃機B29は西の静岡方面から飛んできた。矢上小学校の西側に高射砲陣地があった。

★M氏・日吉本町

空襲で焼けた家は、日吉本町では八軒で一人亡くなった。爆撃は占領政策も考えてやっていたようで、毒ガスを作っていた昭和電工がやられ、日産はやられなかった。

戦後、米軍が日産に進駐し、自動車の修理をしていた。

★金子善一氏・元連合艦隊司令長官付の従兵

日吉に移って間もない昭和一九年一〇月頃、グラマンの銃撃を受けた。

横浜大空襲の時は、夜B29から焼夷弾が落ち、壁や床に当たって燃えはじめ、毛布で消止めた。

寄宿舎の連合艦隊司令部を

目がけて二五〇キロ爆弾を落とされ、民家に当り何人か亡くなった。矢上台にあった陸軍の高射砲陣地から撃っているのを見たが、飛行機まで弾が上がらず、爆発して破片がバラバラと落ちてきた。

空襲の時は長官の軍刀や掛軸などを持って、地下壕の階段を降りたり昇ったりした。

★A氏・宮前

昭和二〇年四月、千葉の勝浦に移った。海上の見張りをしている、艦砲射撃や空襲を受けた。この頃、家が戦災にあい、隊長から「家が燃え、心配だろうな」と声をかけられた。「心配ありません」と答えたが、「一週間行つてこい」と言われ、家に帰った。宮前の四八軒のうち二六軒がやられていた。家には焼夷弾が束になって落ちてきたという。

日吉に海軍が来たため、空襲を受けたわけである。家族はバラックを建てて住んでいた。

★菅谷源作氏・元連合艦隊司令部電氣長

昭和二〇年四月四日の大空襲で、木造二階建ての機関科の宿舍が焼け、藤原という部下が亡くなった。焼夷弾の直撃を足に受け、歩けなくなったので、二階から飛んで死亡したのであった。機関科の五、六人で近くの保福庵寺にて供養した。

★斎藤君子氏・元海軍軍令部第三部理事生

空襲警報がなると地下壕に入った。最初は校舎の近くの壕に入った。後になるとずっと離れた通称イタリア半島の地下壕に入った。数回入った。地下壕の中は広くはなく、素掘りで水がしたたり落ち、湿

気が多かった。奥へは入れなかった。重要書類を持って入ったこともある。

★久保寺重夫氏・日吉本町・元東京警備隊第七分隊

昭和二〇年五月二十四日の空襲で日吉本町が焼け、我が家も焼失した。藤原工大の校舎が良く燃えているのを見た。焼夷弾が肩に当たって死んだ兵士がいた。高校校舎の屋上をグラマン艦載機が攻撃していたが、その機銃掃射の跡が残っていた。屋上には機関砲が備えられていて、応戦していた。

B 29が羽田沖方面に落ちていき、米兵がパラシュートで現日吉の中央通りファミリーマート前附近に降り、捕虜になった。テナン航空隊のB 29の右翼機銃員であった。土地の人にトビ口でなぐられ、

額から血を出しているところを東京警備隊が保護し、坪井隊長と軍令部の人が尋問した。その後、大船の捕虜収容所に連れていかれた。

★千葉朝夫氏・元海軍省経理局第三課

空襲の時は校内放送があり近くの防空壕に入った。私は防空指揮官であった。防空壕は高さ二m、幅二m位で、コンクリートの所や素掘りの所があった。

昭和二〇年五月頃、高校の前で皆に話をしていて、グラマンに撃たれたことがあった。グラマンは田圃に落とされ、乗っていた兵士は捕虜にされて連れてこられた。こちらの顔を見られないように目隠しをされていた。

(生協ニュース教職員版第四六、四九、五〇、五三号より抜粋転載)

川崎・横浜平和の

ための戦争展

97

感想文集

*従姉が戦時中動員で日吉の連合艦隊司令部に書記生として勤務していたと昭和二五年

頃聞いた。自分も学徒軍属として華北に動員されており、内地での敗戦の様相は知らぬが、海軍が陸に上がるといふ状況は信じられない。思えば愚かな戦争をしたものだ。犠牲者の無念さは何とも言い難い。無戦の誓い、平和希求のシンボルとして地下壕の保存を望みたい。城法谷の蟹ヶ谷地下壕についても同じ。

(七〇代男)

*学校でおしえてもらったのて来た。みんなでかいちゅうでんとうをけして、いのったとき、こわかった。もつとおくまで入れたらいいと思う。

(小三女)

*城法谷の運動に参加して、

日吉台地下壕のことをもつとくわしく知りたいと思いましたが、川崎に生れ育ちましたが、あの戦争中、これ程のものを作ったのかと驚きました。

暗闇の中で、朝鮮人の流した汗と血、ここからの発信で死んでいった日本の若者のことを思い、胸が痛くなりました。子や孫に、保存と、戦争を許さない勇気を、平和な日本をつくる力を学んでほしいと強く思いました。(六〇代女)

*上原良司氏の遺品、遺書の展示は圧巻。戦争の悲惨さを訴える写真等の展示が欲しい。

「特攻」の解説は簡潔にまとまっている。多くの方に読んでもらいたい。(六〇代男)

*この前見学した日吉台や蟹ヶ谷の地下壕のことをくわしく知ることができた。また登戸研究所に関することが色々

展示されていたのでよかった。

(一〇代男)

*私は一九才で兵隊になり中国に征きました。ただし一発も撃たずに終戦でした。上司から「お前らは、疎開に来たんだな」と言われました。

私よりご苦労された方が大勢いらつしやるのを知り、涙が出ました。今でも争っている国がありますが、早く終わればよいと思います。日本は二度と戦争をしないように努めましょう。(七〇代男)

*今日はじめて、日吉台、蟹ヶ谷、登戸のことを知りました。戦争に関する事実を一つひとつ知ることの大切さを感じました。

日本軍がどこで、何をやったのか、当時の国民は事実を知らされず、現在の私たちも戦争があった歴史的なことだけは誰でも知っているが、その

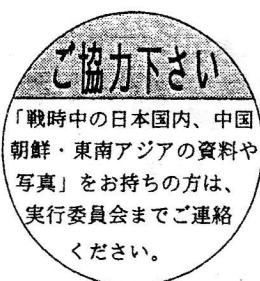
中身は知らないでいます。

同じことを繰り返したくないと平和を願う気持ちは沢山持つていても、それを実現するためには、やはり事実をしつかり見たり、学ぶことが大切だとつくづく思いました。

特攻隊の資料もテレビで見るのと違って胸が痛くなつてしまいました。(四〇代女)

*終戦時、私は小学二、三年で、学童疎開で宮城県にいました。父は遠く南方戦線で厳しい環境下にあり、母と弟は見知らぬ秋田県に疎開、ファミリーの姿は全くない世界でしたが、今日それらを更に越えた姿を拝見しました。

戦争は決してしてはならないと思うと同時に人間の欲が、感情がこうまで気を狂わすものかと恐ろしい感情で一杯です。どうかこうした展示会を続行されるよう願ってやみま



平和のための戦争展かながわ

せん。(六〇代男)

*こんな近くで、このような事があったのに、私たちの年代では本場のことが知られてなかったで、今回の説明で良く解りました。

私たちの年配の者は「このようなことは忘れてしまいたい」と話さないで、展示はもっともつと何回もやって大勢の人に見せて欲しいです。でなければ本当の平和は遠いものとなります。

戦争の恐ろしさを若い人に語っていきます。(六〇代女)

松井市△△地区生口第三回

八月一〇日午後一時半

日吉地区センター

報告

一、六月一四〜一五日川崎横浜平和のための戦争展97(第五回)開催

二、同二〇日「ピース・ミュージアムよこはま(以下PMYと略)」実行委員会に出席

三、同二四日TBS「ここが知りたい」で地下壕放映

四、同二六日「PMY」事務局会に出席

五、七月七日地下壕入口の地主の代理人の方からマンション計画に伴う道路図面を受け取る

地下壕入口にかからないようマンションが建築される模様

六、同八日戦争展かながわ第四回実行委員会に出席

七、同二三日「稲田郷土史会」による見学会二〇名参加

八、同二五日「PMY」事務局会に出席

九、同二九日「PMY」実行委員会

一〇、同二〇〜二二日「戦跡保存全国シンポジウム」

一〇、同二〇〜二二日「戦跡保存全国ネットワーク(仮称)結成大会」に寺田、酒井、吉岐が出席

一一、同二二日シンポジウムに参加した沖繩の人(四名)の地下壕見学会、読売新聞記者同行計七名参加

一二、同二五日港北区民会議地域懇談会で日吉台地下壕保存のための調査費の予算計上を要望

一三、同二九日慶大小松理事と鮫島会長、東郷副会長の非公式会談

一四、同三二日「PMY」事務局の横浜市史編集室見学会

一五、八月三日豊島学院高校生徒による見学会六名参加、

朝日新聞記者同行

一六、同六日テレビ朝日取材、

一五、同七日よりスーパーJにて放映予定

一七、同六日「PMY」主催「戦争体験を語る」シンポジウム約六〇名参加(ランドマークタワー一三階「フォーラムよこはま」にて開催)

一八、同六日読売新聞「語り継ぐ夏」に地下壕掲載される

一九、同七日神奈川新聞に六日の「PMY」のシンポジウムの記事が掲載される

議事

保存の会の運営について

*出席幹事がこれまでのやり方、これからの希望や意見を一人づつ述べ合った

*運営委員会と幹事会を一本化してはの声あり

*寺田事務局長の定年後の慶応とのかかわり方など

'97

平和のための戦争展かながわ

語り継ごう戦争を……「憲法施行50周年」の、いま

明治憲法のもと、15年にわたったアジア太平洋戦争で日本軍が殺した人びとは2千万人を超えました。

戦争を放棄し、軍隊と交戦権をもたないとはっきりうだした平和憲法のもと、50年間に日本軍（自衛隊という名の）が殺した人びとはゼロでした。この事実を私たちは大切にしたい。今年の「戦争展」は、戦争の時代に学校や子どもたちがどんな状況に置かれていたのか、こどもの人権や個性を大切にする憲法・教育基本法・こどもの権利条約がしめすところと、どんなにかけはなれたものであったかを見つめます。

【オープニング】「29日（金）午後2：30分」

●あいさつ 実行委員長弓削 達（元フェリス女学院大学学長）

●講演 小川武満（平和遺族会全国連絡会代表）

【おはなし】「30日（土）午後2：00分」

●山中 恒（児童読物作家）

8月29日（金）～8月31日（日）
午前10：00～19：00
（但し最終日31日は午後5時まで）

鎌倉芸術館ギャラリー 入場無料

（JR大船駅東口徒歩10分）裏面地図参照

◆パネル展示 ◆特設会場でビデオ上映・朗読劇「^{鳩のとが}空を」上演など

高校生の作品展示、クイズコーナー、感想文募集

主催 97平和のための戦争展かながわ実行委員会 / TEL045(212)5855/FAX045(212)5745

後援 神奈川県 神奈川県教育委員会 鎌倉市 神奈川新聞 朝日新聞 読売新聞 毎日新聞
東京新聞 テレビ神奈川 NHK 協賛 coop コースかながわ

川崎・横浜平和のための戦争展 会計報告をいたします。

収入の部

前回繰越金： 29928
賛同金： 236800
プレイベント参加費： 37500
資料代： 9400
書籍売上からの手数料： 32960
カンパ： 124554

471141

川崎市からの補助金：

50000

計 521141

支出の部

場所代： 55620
運営費： 97030
事務通信： 23088
印刷： 40030
材料費： 20713
謝礼： 173680
交通費： 76488

計 486649

次回繰越金：¥34493

ありがとうございました。

